

CASE1

株式会社スリーハイ



社長が地域に出ていったら、会社が変わった！

株式会社スリーハイ 男澤誠 社長



◆現在の雇用の状況

34名のうち、正社員13名、パート19人（そのうち契約社員2名）。川崎市宮前区から都筑区に来た2004年は正社員とお掃除をしてくれるパートさんしかいませんでした。現在はパートのほとんどが徒歩、自転車で通える方たちです。交通費も節約できますし、ご近所チームでシフトを工夫してもらえ、とても助かっています。

◆社長が地域と出会い、雇用が生まれた

地域のことが知りたくて、勉強会に参加し、NPOの方と知り合い、そこから中学校の中のコミュニティハウスを紹介してもらいました。そこで校長先生やPTAの代表の方と知り合いました。そこからCSRで出来ることはないかと地域のお祭りに参加したり、東山田エリアの工場見学などをする「こどもまち探検」という企画が生まれました。地域のPTAのお母さんたちの中から会社にパートで来てもらうことになり、最初にパートに入ってくれた方から適任の方を紹介してもらえるようになりました。それまでは、ハローワークや、新聞の折り込み広告に1回6万～10万円くらいかけて募集記事を出していましたが、そんなことをしなくとも、よい方たちが来てくれるようになりました。地域貢献以上のフィードバックを感じています。働き方改革で残業に制限があるので、パートさんが短時間でも補ってくれるところが、今後ますます必要になってきます。

◆工場の1Fをカフェにしたら、新しいコミュニティが生まれています

最初は社員も「なんで仕事以外にこんなことをしなくちゃいけないのか？」という、はてなマークが浮かんでいたと思います。でも地域の人とやりとりで、確実にコミュニケーション能力が高まり、社員教育にもよいのです。学校見学に来た小学生の保護者の方から、オーダーがあったり、思いがけないところから商売にもつながっていくんですね。

地域のみなさんとの防災マップをつくりました。ここは工場と住宅がごちゃまぜになっている準工業地域なので、これまで工場と地域住民の中につながりがなく、住民からの音など工場に対する苦情がありました。逆に工場敷地に不法投棄があって工場も困っていました。でもそういうことは地域活動で少なくなったんです。

このあたりはお店がほぼなくて、いろいろ使えるコミュニティカフェがあつたらいいなと思い、新しく工場を増設するときに、思い切って工場の1Fをカフェにしました。いつも社員がなにかしらカフェ内で自社製品の作業をしています。地元の方にも使ってもらい、新しいコミュニティが生まれています。

地域で働くよさを実感しています

説田さん：家族は夫と子ども（高3、高1、中1）。スリーハイまで、徒歩10分。パートリーダーとしてシフト管理も担当。



◆週3日、パートリーダーも務めるようになりました

独身のときは会社の事務職をして、電車通勤していました。結婚して子どもが生まれ、退職。その後主人の転勤による引っ越しと、3人の子育てで仕事につくことができませんでしたが、地域の習い事で知り合った友人から、スリーハイで働いてみない？と声をかけられて、働き始めました。14年ぶりの仕事で不安はありました。信頼できる友人からの紹介でしたし、いってみると社員の方たちがとてもていねいに教えてくれて、同年代のパートさんもいたので、不安はすぐに解消されました。スリーハイに採用されたのを知って、いちばん喜んでくれたのは当時小学生の娘でした。まち探検でスリーハイにいったことがあったので、うれしかったのだと思います。

今は週3日くらいのペースで働いています。社員さん、パートさん共々、みなさん親切で雰囲気がよいです。いま、パートリーダーをしていますが、私がはいった3年前からパートさんは1人も辞めていません。社長から「ある程度はおまかせします」と言われ、人が足りないときに私を含むパートメンバーの紹介で期間限定でお手伝いしてもらうことが多いのですが、そのままパートとして働いてもらう方も多いです。私は今、シフト管理などや、みなさんからの意見をまとめる立場にあって責任はありますが、やりがいも感じています。パートさんにはたくさん働きたい人と無理なく働きたい人がいますので、パートみんなで調整しています。

◆自宅から近いところで働く安心感。

勤務時間は9時～16時半が基本。納期が迫っていて、急ぎのものがある場合は、すこし延びることもありますが、だからといって帰りづらい雰囲気を感じたことはありません。たとえば、急な子どもの病気などで学校から呼び出されても、事情を話してすぐにいくことができます。会社から学校が近く、たとえば災害などがあってもすぐに迎えにいけるから、安心できます。この会社には、お子さん、家族あっての仕事だから、という家族を優先できる雰囲気があります。そのことをとてもありがとうございます。

また、パートは地域の近所の人たちなので、いろいろな情報交換もでき、それも大きなメリットです。たとえば、おいしいパン屋さんとかランチできるところとか。でも、いちばん大きいのは病院情報ですね。どの病院がよいよ、とか、生の情報は本当に助かります。私はずっと転勤族の妻だったので、なかなか地域情報が得られない時期がありました。地域の仕事を通じて、友だちができるって、うれしいです。できればずっと仕事を続けていきたいです！

相互電機株式会社

CASE2

働きやすい環境、その中で会社が近いというの重要な要素！

相互電機株式会社 萩野伸夫 社長

◆会社の歴史

昭和26年に私の祖父が、北辰電機の下請け作業から始めた会社が業務を拡大する中で、昭和59年（1984年）に佐江戸町に引越してきました。そのときにはまだここは緑区でしたね。私は3代目になります。

◆現在の雇用状況

現在28名が働いています。そのうちパートさんは5名です。主に組み立て作業をもらっています。パートさんには、溶接、はんだ付けなどをもらう方もいます。募集は、都筑区限定の新聞折り込みが多いですね。パートさんの募集は、「軽作業」なので、「細かい作業が好きな方」「製造の補佐作業」などをキーワードに募集します。折り込み広告に作業をしている女性の写真を掲載したのも、軽作業であることが伝わるといいなと思ったからです。実際に募集すると女性の応募は近くの方が圧倒的に多いです。

社員を募集するときには、リクナビなどネットで募集するので、全国から50～60人の応募があります。実際に遠いところから面接までになった方もいました。「就職できたら近くに引越します」と、とても積極的な方が多いです。よい方が会社の近くに引っ越してきて、働いてくれるのであれば、会社にとってメリットは大きいので、そういう方に引越代金をサポートしてあげたいくらいです。

働く人にとっては、なにかおきてもすぐに家に帰れるという、安心感がありますよね。会社としてもサポートしやすいと思います。交通費の経費が助かるとかそういう細かいことよりも、働く人にとって、近いと通勤時間もかかるないし、働きやすいのではないかと思う。

パートの方の「職住近接」リアルな感想～働く場所は近くがイイネ！



私は今年の3月から働き始めました。子どもが生まれるまでは都内で事務職をしていました。子どものこともあり、働くのを控えていましたが、子どもが高校生、小学高学年になり、自立してきたので、そろそろ外で働きたいなと思っていたところ、求人を知り、応募しました。会社からは自転車で10分のところに住んでいます。今、週3日で9時～16時で働いています。仕事を選ぶときに、この時間帯だと接客か宅配受付などの求人が多いです。でも、もともとコツコツした仕事をするのが好きなので、この仕事を選びました。



私はここで働いて3年ぐらいになります。家は徒歩3分とすごく近いです。新聞折り込みを見て応募しました。結婚して今の場所に引っ越ししてきました。子どもが小学生になったら仕事しようと思っていた。以前は毎日多くの人と接する仕事をしていましたので、人と接しない作業をする仕事をやってみたりしました。家が近いので、近所の人たちとも知り合いでし、会社まで来る間にも、散歩している近所の人たちにあいさつしながら出勤します。スマホを忘れてお昼休みに取りにいったことがあります。そういうとき便利だなと思いました。普段は個別の1人作業なので、ランチタイムはみなさんとコミュニケーションをとれる貴重な楽しい時間になっています。



私はここで働くようになって、3年ぐらいですね。会社からは自転車で10分のところに住んでいます。みなさんと同じように新聞折り込みを見て応募しました。接客業じゃない仕事を探していました。もともと細かい仕事が好きなんです。現在子どもは高校高学年、中学高学年になりました。15時で終わって帰れば、子どもが習い事にいく前に、ごはんを食べることができます。会社ではんだごての仕事をして、使えるようになります。家族のバイクの修理のはんだ付けを手伝うこともできました！



私は4年半くらい経ちます。やはり徒歩10分のところに住んでいます。私も新聞折り込みを見て、近くでいいところがないかなと探ししていましたので、応募しました。子どもが小学校低学年の頃から働いています。今は小学校高学年になりました。子どもの行事などを伝えて、融通してもらうこともでき、助かったこともあります。近くで働くと、いまさら電車やバスに乗って仕事にいくなんて、考えられません。満員電車が嫌ということもあります。それ以上に働くところが近いということは、気分的にも安心できます。



働く場所は、近いところがいいよね！

